

# 若手教員海外研修支援事業概要報告書

氏 名	農学部／助教 大住 あづさ
研修期間	令和元年6月4日 ～ 令和元年12月12日（鹿児島発～鹿児島着）
<b>1. 教育研究機関</b>  国名及び滞在地名： <u>          フランス          </u> 国 <u>          モンペリエ          </u> 市 機 関 名： <u>          フランス国立農学研究所          </u>	
<b>2. 研修報告</b> (1) 研修題目     農業の条件不利地における地理的表示制度を活用した農業地域振興と農と食の継続的調査拠点形成  (2) 研修の成果 <u>(※地域貢献型で採択された方は、本研修による海外体験や研究成果が、地域産業や地域人材育成へどのように貢献しているかについてもご記入ください。)</u>  <p>農業を主とする条件不利地域の振興は、固有の農産物・食品がある地域、農業が主産業ではあるが特徴のある産品がない地域で、方向性が異なる。本研修期間中、前者の事例としてオリーブの地域伝統品種Lucquesの加工品（塩漬オリーブとオリーブオイル）で地理的表示を取得し、地域振興に取り組むHérault県山間部の事例を、後者の事例としてはPyrénées-Orientales県における2つのコミューンで始まった持続的地域発展プロジェクトVal Llechの事例を検討した。</p> <p>核になる特産品の有無は異なるものの、両者ともに観光業との連携を行う点が共通していた。Lucquesは特に夏のバカンスで多くの人を訪れる地域にあるが、農協は直営店舗を設置しオリーブオイル・塩漬オリーブだけでなく、エスプレットピーマンなど他の有名な特産品と合わせた食品や化粧品などを開発し販売していた。また地理的表示の生産者団体は、オリーブ品種の違いや、栽培から加工までを学ぶアトリエ、オリーブ祭、マルシェなど旅行者・住人向けのイベントを開催する他、「南仏産」ブランドに登録するなどより広域の地域のイメージと結びつける工夫がなされていた。Lucquesの事例では、すでに生産者の集団活動の場として機能している農協や地理的表示の生産者団体を活動のベースにしており、円滑な活動ができていた。一方、後者の事例は環境に良い循環経済のシステムを構築していくプロセスそのものを認証し、先進的取り組みを行う地域として地域自体の魅力を高めることを目指すオルタナティブなタイプの取り組みである。このような地域発展プロジェクトでは、活動のベースの構築から始める必要があり、活動が継続されるかどうか初期段階の最も大きな問題となる。調査では、どのように農業者と住人がグループを作りプロジェクトをスタートさせることができたのか、アクションリサーチの形式を取り、参加者の共通認識と動機についてインタビューを行った。当初グループ内には観光業の位置付けや活動の方向性について異なる意見が存在した。これら相違や対立に関する調査結果をメンバーに還元したことで、メンバーはグループの現状に対する理解を深めることができた。これにより、方向性を規定する憲章や私的認証制度の重要性を認識し、それらの構築を開始することができた。</p> <p>当初の計画（1年）に対し実際の期間が6ヶ月であったため、前者について地域人材の育成制度、地理的表示制度の活用による地域産業への効果については、調査は実施できなかった。また後者について、社会的構築物としてビオバレ等の具体的な私的認証システムが確立するには至らなかった。今後も両者の地域発展策について、研究を継続していく。加えて、これら研究成果は、学会報告や研究論文としての公表を目指す。農業経営学研究室では、鹿児島県から依頼を受け継続的に地域課題解決に向けた調査やコンサルティング業務を行なっている。今後は、このような具体的な地域貢献事業の中で、今回得られた体験や研究成果を実践的に還元していく。</p>	